

次世代の教育を共に創る ～「やさしさ」と「しあわせ」が行き交う学校～

新年度が始まり、校庭の芝生にもあたたかな春の日差しが広がる季節となりました。お子様のご進級、ご入学、誠におめでとうございます。進級・入学を迎えた子供たちの晴れやかな表情に、今年度の始まりへの期待と希望を強く感じています。

本校では、「好きを育み、得意を伸ばす」学びを大切に、「マイ探究」や「マイセレクト学習」等の取り組みを通じて、子供一人ひとりが自分の興味関心を起点に主体的に学ぶ姿を育てています。子供が自分の好きや得意を知り、それを深める過程には、自然と自信や自己肯定感が育ちます。また、日々の学びや生活の中で、異なる考え方や価値観に触れながら互いを尊重し合う経験を積むことで、子供たちの「やさしさ」はより豊かに育まれていきます。

「やさしさ」とは、誰かを大切に思う気持ちであり、目の前の人のために行動しようとする心の動きです。そして、その行動が誰かの役に立ったとき、子供は大きな「しあわせ」を感じます。自分自身ができた、成功したという喜びだけでなく、誰かを助けたり、誰かに喜んでもらえたりすることで得られる「しあわせ」を実感することこそ、これからの時代を生きる子供たちにとって重要な価値になると考えています。

だからこそ、本校は青少年赤十字(日本赤十字社)に加盟し、活動を続けています。そして、「人は、今よりもやさしくなるために、しあわせになるために学び続ける」という姿勢を、子供にも大人にも大切にしてほしいと願っています。

さて、令和8年度は「子供センタード(子供を真ん中にした)」教育のさらなる推進を図ります。「杉並区子どもの権利に関する条例」や「杉並区いじめ防止に関する条例」をふまえ、子供の意見や権利を尊重し、安心して自分の考えを表現できる学校風土を一層整えてまいります。

また、本校が指定を受けた「高学年教科担任制」への取り組み、芝生校庭の生かし方の工夫(はだし体育、はだし遊び、養生期間の工夫)、子供が話し合って予算の使い方を決める「こども未来予算」の創設、杉並区研究学校事業等、今年度は新たな挑戦が数多く始まります。

これらの取り組みの中心にあるのは、子供たちが「自分たちの学校をよりよくしたい」と主体的に関わる姿を育てたいという願いです。学校は、子供が自分らしさを発揮し、多様な仲間とともに学び合う場であり、地域の方々と温かくつながる場でもあります。その中で生まれる体験や対話は、子供の人生を豊かにする大切な学びそのものです。

保護者・地域の皆様には、新年度も変わらぬご支援、ご協力をお願い申し上げます。学校と家庭、地域が一体となり、子供たちを温かく見守りながら育てていくことが、何よりの力になります。一人ひとりが自分の「好き」を伸ばし、仲間と共に成長し、誰かのために行動できる子供が増えることで、桃五小はさらに「やさしさ」と「しあわせ」が行き交う学びの場になっていくと信じています。どうぞ、よろしくお願いいたします。

令和8年4月6日

杉並区立桃井第五小学校 校長 佐野 篤